

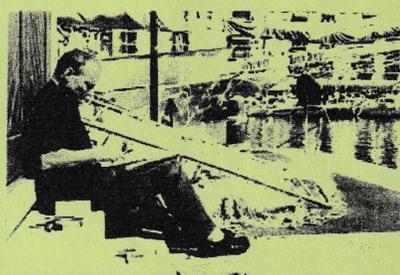
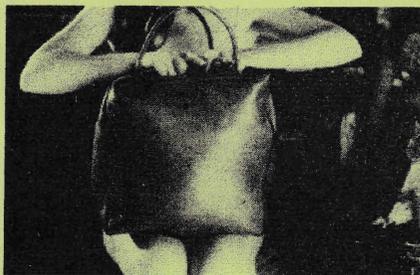
New ew C Century, inema

市場に操作される批評や情報の寡占状態からひとたび視線を外してみると、世界ではこれらとは関係なく、極度にシンプルで驚愕すべき傑作が揃れ続けている。ブレッソンが行ったモンタージュによる顔の非特権化から顕在するエロティシズムを、一人の女性への距離だけで軽やかに描いてしまうフランス・ファン・デ・スターク。画面と音の正確な一致が、更新されるたびに衝撃を創造するベーター・ネストラー、そして、ペドロ・コスタ以降のポルトガルの新しい作家サンドロ・アギラール。これら日本未紹介の三人の作家の作品の前では、もうフィクションやドキュメンタリーという呼称はどこかに忘れてしまうしかない！

2003年9月19日[金]

主催/NCNC
協力/アテネ・フランセ文化センター、Strandfilm (フランクフルト)
Filmmuseum(アムステルダム)、Agencia da Curta Metragem (ヴィラ・ド・コンデ)
ウィーン国際映画祭 (www.viennale.at)

▼17:30- 上映



セピオ *Septio*

オランダ 1996年 16ミリ カラー 31分
監督/脚本 フランス・ファン・デ・スターク
撮影 ヤン・ウィヒ
脚本/編集/録音 ナルシェン・バキール
出演 カリーナ・エルメルス

ある夏、ひとりの女性がすべてに愛の気配を感じつつ日常を過ごす。

フランス・ファン・デ・スタークは1973年に短編『バルフ・デ・スピノザの作業1632-1677』で注目された。以後自主製作で映画を撮り続ける。その作品はジャン＝マリー・ストロープやヨハン・ファン・デル・コイケンらに絶賛され、特にストロープは彼を「ヨーロッパ最大の作家のひとり」とまで述べている。プロデューサーとしても活動し、後のオランダの映像作家たちに大きな影響を与えた。2001年5月28日死去。

リメインズ *Remains*

ポルトガル 2002年 ヴィデオ カラー 12分
監督/脚本/撮影/編集 サンドロ・アギラール
使用曲;スコット・ウォーカー「行かないで」

『ヴァンダの部屋』のペドロ・コスタにも注目された、1974年生まれポルトガルの映像作家サンドロ・アギラールの最新ビデオ作品。

逃走 *Flucht*

ドイツ 2000年 ヴィデオ カラー 87分
監督 ベーター・ネストラー
撮影 ライナー・コマース

1935年以来ドイツを去り占領下のフランス各地でナチとフランス警察に追われて逃亡生活を送ったユダヤ人画家レオポルド・マイヤー。彼の息子で画家のダニエルが父の足跡を辿り、自然の美しい北フランスを旅する。やがて彼は当時父を助けたり密告した人々と出会う。

ベーター・ネストラーは1937年生まれで1962年の短編『運河』以来現在まで60本以上のドキュメンタリー映画を製作している。ジャン＝マリー・ストロープは彼を「戦後ドイツ最大の映画作家」と讃えたが、ドイツでは映画製作を続けられなくなり妻とともにスウェーデンに移住。以後スウェーデン国営テレビのために製作を続ける。2001年にはウィーン映画祭で回顧上映がおこなわれた。最新作はソビエト収容所脱走者を裏切った友人たちの行動を分析する『善き隣人の転向』(2002年)。

▼20:00- 講演「映像の新しい可能性」
講師：赤坂大輔（映画批評家）

■全作品日本語字幕なし ■入れ替えなし
■参加料 一日券 一般=1200円/アテネ・フランセ文化センター会員=1,000円

■会場&お問い合わせ
アテネ・フランセ文化センター
東京都千代田区神田駿河台2-11 アテネ・フランセ4階
(JR/地下鉄 御茶ノ水・水道橋駅より徒歩7分)
TEL:03-3291-4339 (13:00-20:00)

